

芦屋市立西蔵こども園様

公益財団法人 ソニー教育財団
ソニー幼児教育支援プログラム
審査委員会

2021年度
「ソニー幼児教育支援プログラム」審査講評

審査のポイント

- 子どもの主体性や感性、発想・意欲を活かした、創意工夫のあるユニークな取り組みが展開されているか。
- 貴園が考える「科学する心」が明確に記述されているか。さらに、園独自の考えに基づく「科学する心を育てる」保育の手立てが具体的に示されているか。
- 子どもの姿や保育者の関わりや環境構成などが具体的に記述されているか。
- 子どもの姿を、貴園が考える「科学する心を育てる」視点から、育ちや変容を的確に捉えて考察につなげているか。
- 本実践で得た考察に基づく課題を抽出し、それを改善するための「今後の方向性（計画）」が具体的に記述されているか。

2歳児が虫と出会い飼育を通して、気付いたことや疑問に思ったりドキドキしたりしたことを表現する姿が記録から生き生きと伝わってきます。とりわけカマキリの生餌の捕食の様子には夢中になり、さらに良く観るようになったことで2歳児なりにカマキリの生態や特徴を知ることになり、関心が高まっていきました。生餌を食べることへの興味と食べられてしまった虫への同情とが入り混じった複雑な子どもの心のもち様なども保育者が丁寧に捉えようとしています。

「科学する心」を園独自のサイクルで捉えられています。長期に渡る虫との関りを通して子どもの気持ちが複雑に揺れ動きながら豊かな学びをしている姿を、サイクルの中の3つのキーワードから検証することで「科学する心」の育ちを捉えようと工夫されていることが評価されました。

長期に渡るカマキリの飼育は貴重な体験になったと思います。その一方、貴園が課題で述べられている「2歳児に生き物の生死を見せることの賛否」は重要な視点だと思います。自然の生態系の中で生きるために捕食し合う場面とは違って、生きた虫を捕まえて食べさせる行為を繰り返すことは、記録の中にあるようにショックを受ける子どももいます。そのことへの配慮やこうした体験が後にどのような姿につながっていくのかを見守ることは大切なことだと思います。これからも丁寧な記録や読み取りを重ね、子どもの育ちの変容を捉えてご報告いただけることを期待しております。

貴園の益々のご発展を祈念いたします。